

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2791600022		
法人名	有限会社 コミュニティーハウス		
事業所名	グループホームめいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	平成 28年 1月 23日	評価結果市町村受理日	平成 28年 4月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2791600022-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2791600022-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 2月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度始めたMEI'S CAFEで地域との繋がりが、交流をさらに深めることができた。認知症サポーター養成講座の講師として小学校・中学校からも声がかかるようになった。介護士同士の横の繋がりを深めるとともに、吹田市民の方々に向けて、グループホームでの生活や老いについて「語り合おう 介護の魅力 あなたの笑顔に癒される わたしにできることプロジェクト」を昨年に引き続き今年も開催する運びとなった。今年は事例発表だけでなく、屋台を出したり、ミュージカル仕立ての劇をしたり、最後にはメッセージ入りの風船も飛ばします。

開設10周年を迎え、「夢に愛される場所、夢叶う場所」として、めいの家は地域に根差したホームとなりました。今年度からは、認知症カフェ「MEI'S CAFE」も始め、子どもも大人も高齢者も入居者も地域住民の一人として、自由に交流できる場所を提供し、更に地域との繋がりを深めています。様々な行事に、地域の子どもたちも参画し、仮装やダンスを披露しています。又、認知症サポーター養成講座の出前講座にも積極的に取り組んでいます。昨年からの取り組んでいる「わたしにできることプロジェクト」も2回目になり、グループホーム連絡協議会や行政と協賛し、地域への認知症の周知に向けて情報発信をしています。また、優れている点は、家族会の自主的な活動です。家族、職員相互の交流のみでなく、看取りの学習会や大掃除、1泊旅行にも参加し、日常的に関わりを持っています。また、他の家族会との交流も始めています。管理者は利用者の「今」を大切にしており、職員も一緒に楽しむことを大切に、行事や旅行の催しには、趣向を凝らした芸を披露しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。</p>	<p>ホームは「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう～」を理念に掲げています。開設10周年、めいの家は「夢に愛される場所、夢叶う場所」として、地域に根差したホームとなりました。職員は理念を具現化するために『ここに来てよかった』『あなたに会えてよかった』『生きていてよかった』といろいろな『よかった』を応援しています。理念を具現化するために職員は&lt;今&gt;を共に過ごし“一緒”に楽しんで“一緒”に泣いて、“一緒”にケンカして“一緒”に笑って、愛して“一緒”に生きていくこと、利用者の「今日」を大切にケアに取り組んでいます。また、今年は、職員1人ひとりが、抱負を掲げて、見える位置に掲示しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、役員も務めています。五月ヶ丘の夏祭り出店にも積極的に参加をしています。今年の春祭には、「メイバーサルジャパン」とUSJの仮装をして行い、地域の子供たちもキャラクターの服を着て来てくれたり、帽子をかぶって来てくれました。職員が事前に覚えたバルーンアートを子供たち・利用者と一緒にしたり、今まで以上に沢山の方に来ていただきました。夏祭りには浴衣を着て来てくれたり、太鼓をたたいたり、スイカ割をしたり、一緒に踊りました。今年から日曜日に月2回MEI'S CAFEをオープンしました。認知症の方でも、介護をしている人、そうでない人、誰でも気軽に来られる場所を目指し始めました。お隣の親子が来てくれたり、子供がお年寄りを怖いと言う…と一緒に来られ、利用者と話しをして帰られたり、毎回来てくれる小さなお客さん。親子3人でランチやデザートを食べに来て、犬のかん太と遊んで帰られます。11月にはクリスマスイルミネーションの点灯式があり、たくさんの子供たちが参加してくれました。毎年恒例のお餅つきにも地域の方々がたくさん参加してくださいました。開設時より飼っている犬の散歩を通じて、ご近所の方々との交流も続いています。	開設から10年となるホームは、当初から自治会に加入し、地域住民の協力を得ながら、地域に根差したホームを目指して、さまざまな活動に取り組んできました。自治会の提案で、近隣小学校の父親参観の日に、春祭りを開催し、ゲームや仮装大会など子ども達とも交流が深まりました。それらを機会に、恒例行事の夏祭り、クリスマス会、もちつき等の行事に地域の子供たちや地域住民が参加し共に楽しんでいます。また、夏祭りでは、やぐらを組み利用者や地域の住民を巻き込んだ行事へと、発展してきました。近隣の小中学校への認知症サポーター養成講座にも積極的に取り組んでいます。また、今年度からは、認知症カフェ「MEI'S CAFE」を始めました。ランチやスイーツを提供し、地域住民が自由に集い、子どもも大人も高齢者も自由に交流できる場となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中学校の職業体験・福祉体験、新人教員初任者研修・夏のボランティアなどを積極的に受け入れ、「認知症とは?」・「GHとは?」・「車いすにのってみよう!」などさまざまな実習に取り組んでいます。中学生の職業体験・福祉体験に加え、竹見台中学校の授業で福祉について、認知症についてのお話をさせて頂きました。認知症について、わかりやすく紙芝居をしたり、劇をしたり、車椅子の体験をして、沢山の感想のお手紙を頂きました。授業を聞いて自分のおばあちゃんに対して想いがかわったなど嬉しいお手紙を頂きました。11月には家族会と協同で認知症サポーター養成講座を実施しました。そして、去年に引き続き「わたしにできることプロジェクト」が3月に行われます。介護・認知症について、今関わりのない子供や若い人たちに少しでも多くの人達に来ていただける様、楽しいプロジェクトになる様、日々話し合いをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会役員・自治会役員・Dr.・Ns.・地域包括センター職員・社会福祉協議会職員・GH職員が集まり、2ヶ月に一回開催しています。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。	運営推進会議は規程・規約作成し、2カ月に1回、開催しています。月により参加者は異なりますが、構成員は、家族会役員、自治会役員、主治医、鍼灸員、訪問看護、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員です。会議は、往復はがきで開催会日を伝え、出席の確認をしています。会議では、行事の報告を行い地域の情報を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会への参加、市主催の介護フェアへの参加等を行っています。又、市担当者、市内グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。近隣のグループホーム等には、夏祭り・お餅つきなど催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。上記のグループホーム連絡会にて立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」では、沢山の施設の職員が集まり、チームを作りプロジェクトを進めています。更に今年は吹田市のオレンジカフェ・認知症カフェの集まりも始まりました。始まったばかりですが、力を合わせていきたいと思えます。	グループホーム連絡会の有志で立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」は昨年に引き続き2回目となり、市や教育委員会の助成も受け継続した取り組みとなりました。2カ月に1回行うグループホーム連絡会への参加、社会福祉協議会や市の要請も受け、認知症サポーターの養成にも積極的に取り組んでいます。ホーム内での事故報告の体制も整っており、必要に応じて書面で市へ届けを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。</p>	<p>人権や身体拘束に関する研修を実施しています。ベッド柵4本の設置は身体拘束にあたるか、車いすの位置は、ソファベッドの足の挙上は、などと具体例を検討しながら、身体拘束について職員の理解を深めています。玄関の鍵はオートロックですが、内側から自由に開錠することができます。各階のエレベーターも自由に利用でき、1階のデイサービスや2・3階フロアに自由に行き来できます。また、利用者が外出したい様子を察知した場合、行動を制限するのではなく、遠目から何気なく様子を見守り、安全に留意しながら外に出ることを支援しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待事例から考える外部研修に参加し、それをまた、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会ができたおかげで、今まで以上に家族の協力が大きくなりました。家族会役員の呼びかけで、たくさんの家族が行事に参加してくださり、大掃除をして下さったり、旅行の時には劇もしてくださったり、家族会より提案を頂き、めいの家で地域の方を対象にした認知症サポーター養成講座を開きました。その中で話をする機会も多くあります。面会時には声をかけ、電話・メール等でも意見・苦情を聞き取っています。職員にはミーティングなどで情報提供し、問題発生の際は、早期解決を今までと変わらず続けています。</p>	<p>家族会が発足して5年が過ぎました。退所した利用者の家族も賛助会員となり継続してホームの運営に協力しています。運営推進会議にも複数の家族が参加し、行事や運営について積極的に意見を述べています。家族会からの提案で毎年1回「終末期ケアについて」の家族研修会の開催や「子供たちにもわかる認知症サポーター養成講座」を地域住民の参加を得て開催しています。家族会は「山部」「釣り部」というサークル活動を実施し、家族と職員の交流の場になっています。面会時には積極的に声を掛け自由に意見を出してもらえるような雰囲気づくりにも努めています。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。	職員の要望や意見などを把握するために年に2回「スタッフケアプラン」を作成しています。職員は自己評価し、業務上の個人の目標や悩みなども記入して管理者と面接をしています。今年度は管理者も含めて、他職員からの評価も記入し、仕事をする上での自身の強みや弱みを再認識する機会となっています。管理者は日常的に職員に声を掛けて、職員の心身の状況の把握に努めています。職員から出された意見や要望は、できることは話し合いを重ねて改善し、労働環境に関することなどは管理者から本社に伝えて改善するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めたいです。今年も全職員ケアプランを作成し話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を実施しています。本年度は、認知症ケア・人権について、感染症・食中毒について、虐待、感染予防と発生時の対応について等です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。他に新人職員に対しては新人研修を実施しています。講師となるのは施設長だけでなく、職員も講師を務めます。そのために職員一人一人が勉強しています。全職員に研修ファイル配布、外部研修を受講した場合には記録を作成し、研修報告書を回覧しています。また、介護福祉士合格に向けて勉強会を開催、資格取得に取り組んでいます。また、内部研修として事故防止勉強会を行っています。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>            代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催するグループホーム連絡会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。GH 連絡会では、他施設と共同で認知症サポーター養成講座を開催し、介護職員の交流会も企画しました。また、3月には「わたしにできることプロジェクト」と銘打ち、吹田市の介護職員による事例発表会を行います。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。電話やメールで密に連絡をとり。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等スタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 本人と共に過ごし支えあう関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。洗濯物量や洗い物、食事準備や掃除、得意なこと等、役割を持ち取り組んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の度にお知らせし、一緒に楽しむ機会を作っています。身体状態、生活全般の不安・質問等については、電話やメール、面会時に聞き取りを頻回に行うようにしています。信頼関係を築いていく努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋には、自宅で使っておられたタンズや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。友人や自宅近所の方にも行事をお知らせしたりします。遠くに住んでいる親戚には手紙を出したり、電話で話をしたりしています。行事などで仲良くなった利用者に会いに、各階を往来するなど、自分のフロア以外の人も仲の良い関係を見守っています。	入所前の友人、知人が途切れることなく面会に訪れる方がいます。毎週礼拝のため教会へ通うことや、馴染みの美容院やマッサージなど希望に添って付き添うなどの支援をしています。職員は馴染みの関係を継続するために、遠方にいる家族あてに本人のメッセージを添えた広報誌を定期的に送付しています。ホーム開設後10年が経過し、地域との交流が日常的になり、散歩や外出の際に気軽に声を掛けあうなど新しい馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に守っています。又、コミュニケーションがいき違わないよう援助することを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年は1人の方がお亡くなりになり、娘さんが家族会役員で、賛助会員になってくださいました。行事には必ず参加して下さいます。家族会だけでなく賛助会員の方は必ず行事に参加して下さい、旅行や忘年会にも来て頂きました。賛助会員でない方も、年末にはメールをくださったり変わらない関係が続いています。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	担当職員が日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向をできるだけ具体的に聞き取っています。食べること、外出すること、したいことなど、聞き取ったことをアセスメントシートに記入し、どうすれば実現するかを職員同士で話し合い実現に向けて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。また、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。家族や職員だけでなく、知人や関係者などその人に関わる人を広い範囲で考え、担当者になってもらっています。	担当職員が本人や家族の意向を聞き取りアセスメントを実施しています。アセスメントは「ホームでの生活の様子シート」で利用者の様子を午前・午後・夜間にわけて利用者の様子を記録しています。毎月1回職員全員でケースカンファレンスを行い、職員の気づきや情報も合わせて話し合い介護計画を作成しています。日々の支援経過はパソコン上で管理し、モニタリングは3ヵ月ごとに行い、入退院やその他、状態に大きな変化がなければ6ヶ月から1年で計画の見直しを行っています。	現在、介護計画と支援経過、カンファレンス、モニタリングとそれぞれ別々のファイルに保管しています。介護計画の課題や目標、それに沿った支援内容、実践の結果評価としてのモニタリングなどの過程がわかりやすくなるように、一冊にファイリングするなどの工夫をされたらいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡ノートを活用しています。また、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・お好み焼き屋・喫茶店・ドラッグストア・コンビニやショッピングモールなど行きたい所に行きます。行事や消防訓練等を通じて、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日利用者一人ずつ、往診ドクターの診察があります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。また、セカンドオピニオンも行い、より適切な医療を受けられるよう支援しています。	医療体制については、入居時に医療機関と家族・本人との直接契約であることを説明しています。その上で利用者一人ひとりの希望に応じて対応しています。事業所の協力医は、在宅医療チームを組んだ2名の医師が対応しており、毎日往診があり、相談が常にできる体制や24時間の緊急時体制が整っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、Drより指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr・NS・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員で(ユニットの違う職員も含)で看取りを考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能で、話し合いの際にも、意向の確認をし、ケアに反映しています。</p>	<p>入居時には家族に、終末期や重度化した場合の利用者の意向を話し合うよう依頼し、看取り介護の同意書を交わしています。入居まで、終末期について話し合う機会のなかった家族には戸惑いもありますが、必要に応じて家族会のサポートも受けながら、考える機会となっています。入居後、状態に応じて利用者、家族、医師、看護師とカンファレンスを実施し、終末期ケアプランを作成し、支援の方向性を決定しています。家族会が主催して、看取りについての研修会が行われ、家族と共に考える機会となっています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修として、事故防止勉強会を実施しています。誤薬について、膵臓癌・胆管癌について、看取りりにあたり介護士としてできること、介護にまつわる職員の想い等の研修を行いました。利用者の急変対応や、その時に必要だと思われる内容を委員で話し合い、研修内容に反映させています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年、5月・11月に消防訓練を実施しました。11月の消防訓練の時には、利用者も参加し、一緒に消防訓練を行いました。</p>	<p>年2回の消防の指導を受けながら、防災・避難訓練を実施しています。スプリンクラーや消火器の設置、災害時のマニュアルを作成しており、地域の自治会の協力を得て、地域と共に防災訓練を実施しています。昨年は、消火器の実地訓練も行いました。2・3階が居住空間であり、リビングからの避難通路については、夜間車いすでも避難が可能になるよう、テーブルや椅子の配置を変更して対応しています。日頃から、使用しないコンセントには蓋をする、たばこを吸う場合は場所を固定し職員が見守るなど注意を払っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。	プライバシー、守秘義務等について、職員が講師となり、人権研修を行っています。管理者は、日常のケアの中で気になることがあれば、職員、家族と共に話し合う機会を設けています。利用者が、その人らしく夢を実現できるよう、「今」を大切に、1人ひとりが利用者との関係を大切にしながら、その人の楽しみに繋がるよう取り組んでいます。利用者と職員との馴染みの関係づくりの中で親しみを込めた言葉遣いが馴れ馴れしくなってしまう、誤解を招く事例がありましたが、職員間で利用者の言葉の裏にある思いを話し合うことで、今は改善されています。	今後も1人ひとりの尊厳を守るための対応について、職員同士で話しあう機会を設け継続されては如何でしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか、以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中でしていた手芸や歌や、洗い物などの日常の家事を一緒にしながら、寄り添うことで気持ちが表出したりすることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きて来られた方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴はDr.からの指示がない方は入りたい時間に、日にも特には決めていません。ペースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わり、ゆっくりと過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の訪問美容師にカットをお願いし、洋服・下着等はできる限り一緒に買いに行って選ぶ、通販等で買う時には一緒に本を見る等、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛りつけ、一緒に配膳、一緒に席につく、いろいろな話をしながら一緒に食べるようにしています。又、食後も一緒に片づけられる人もおり、出来る範囲でお手伝いして頂いています。食べ物が口に溜まってしまう方には、どんな工夫をしたらスムーズに食べられるかを考え色々試し、少しでも楽しい食事ができる様努力しています。メニューも好きなもの、食べたいものを聞いたり、季節のものや郷土料理など、職員と利用者が一緒に考えています。	併設する1階のデイサービスに厨房があり、朝、夕食は下ごしらえしたものが各ユニット届き、味付けや盛り付けを利用者と一緒に行っています。寿司やなべ料理、焼き肉、お好み焼きなどのメニューの日は、1階のデイサービスの利用者と一緒にテーブルを囲みランチタイムを楽しんでいます。毎月恒例の元板前が握る寿司の日は、利用者の楽しみとなっています。目の前で鯛や鮪など好きなお寿司を握ってもらい、日頃食が細い利用者も、お代わりをしています。食材は、配食業者から届きますが、食材に触れる機会を作ることやおやつは近隣スーパーへ買物に出掛けるなどの支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は毎日つけています。食意が低下した人、体調の悪い人がいた場合は、食事量も記録しています。水分は、好みがあるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。その人に応じた水分量をDrと相談し、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生師が往診します。必要な方は見てもらいます。又、方法等を教えてもらい、日々の口腔清拭はCWが手伝っています。個々で、歯ブラシの形状も洗い方も違うので、できないところはCWが手強い清拭保持に努めています。</p>		
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>おむつ着用の方は一人もいません。全員下着はパンツ着用、尿漏れのある方はパンツの中にパット使用、尿意のない方・定かではない方は随時トイレへの誘導を行っています。気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一丸となってやっています。</p>	<p>排泄自立をしている利用者も多く、できるだけ現在の状態が維持できるように、声かけで排泄を促すよう支援しています。おむつで入居した利用者もいますが、家族と相談しながらできるだけ、布製のパンツにパッドを使用し、快適に過ごせるよう取り組んでいます。尿意の訴えがない利用者に対しては、本人の排泄パターンを把握し、定時的にトイレへ誘導を行い、排泄を促しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、足りないところは、ごまきなこ・牛乳・バナナ・芋類・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。お茶は、ごぼう茶・もろこし茶・てん茶などで便通を促しています。適度な運動(散歩・買い物等)の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていません。Dr.からの指示のない方は、週に2~3度は最低入ってほしいと思って行っています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。ただ入浴するのではなく、入浴中にしか聞けない話などもあり、ずっと同じ職員ではなく、色々な職員が介助に入れる様にしています。足元がちゃんと見える様、乳白色以外の入浴剤を揃えてあります。	入浴は、一人ひとりの習慣に応じて対応しており、希望があれば毎日でも可能です。夜間入浴を希望する場合は、人員配置をみながら、可能な範囲で対応しています。利用者には最低でも1週間に3回以上を目安に促し、楽しみに繋がるよう、浴槽の壁に魚のシールを貼り、入浴剤で香りの工夫もしています。また、風呂場の手摺が分かるように赤色にするなど、安全面での配慮をしています。医師の指示で入浴制限のある場合は、全身の清拭や足浴、排泄後の洗浄など、衛生面にも気を付けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は2時間を上限とし、その方の体調や状況に合わせた頻度で巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。ベッドカバーなど本人の好きな色・好きな柄にして、安眠できる様工夫しています。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬がどんなに怖いことかをホームD r.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別日誌・連絡ノートに書き、全職員がサインするように徹底しています。全職員参加で誤薬マニュアルを作成し、誤薬防止に取り組んでいます。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>みなさんに、家事に役割を持ってもらったり、買い物に同行してカートを押してもらったりしています。車椅子の方は、洗濯ものを畳んでもらうなど、個々の役割があります。裁縫の得意な方にはボタンつけや裾上げなどをしてもらっています。そして、好きなこと・得意なこと・自慢できることを聞き取り、楽しみながら意欲を引き出せるよう考えています。又、お酒が好きな方は、外に飲みにも出かけています。</p>		
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ピクニック・花見等…計画が必要な場合には入念な会議をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものはありません。近所の公園に行く、ドラッグストアに行く、甘いものを食べに行くなど、その季節、その人にあわせて行っています。業務日誌に外出の記録を記入して、全体の状況が把握できるようしています。</p>	<p>日常的に、近隣の公園の散歩、コンビニへの買い物、喫茶店などへ出かけています。車いすになっても、1人ひとりの体調を把握したうえで、ホームの外に出て外気に触れる時間を取るよう心がけています。また、利用者がほしいものを希望した場合、可能な範囲で一緒に買い物に出かけています。日常的な買物や散歩以外にも、年1回の旅行は恒例となりました。利用者、職員、家族と一緒にバス旅行は、体調の可能な限り全員が参加し、旅行を楽しんでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全ての金銭管理は事務所でしています。出掛ける時、必要な物を購入した時は、領収書で、月一度家族に報告します。出掛けた時、利用者によってはお財布をご自分で持ってもらうこともあります。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙と一緒に書くことがあります。遠くに住む親せきとの手紙のやりとりや、お洋服を頂いたお礼の手紙、他にも娘と手紙のやりとりをしている方もいます。又、電話は、訴えのある時に利用してもらい、職員が家族あてにかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良くなった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子の形をそれぞれの座りやすいものに合わせたり、個々に合ったクッションを使ったり、トイレの手すりを最小限にし誰もが安心できるようにしたり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものであったりしています。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCDをつけるようにしています。また、壁には行事の時の写真を貼り、利用者だけでなく家族も楽しみにされています。メイズタイムを送っている家族以外の方が写真を見ている事が多く、とても多く会話が盛り上がっています。	玄関前には駐車場があり、夏祭りなどの催しにも利用しています。3階建てのホームは、1階がデイサービス、2階3階がグループホームです。1階には、自動販売機があり、タバコや飲み物お菓子などを販売しています。各フロアのリビング兼食堂の共有空間は、採光や机の配置を工夫し居心地良く過ごせるように工夫しています。廊下の壁、エレベーター内には、動物なのウォールステッカーを貼り、楽しめるような空間づくりを提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士で話をしたい、一人になりたい時は、リビング横の事務所か、それぞれのお部屋を使っています。また、ご本人専用湯呑・茶碗・箸を使用することや、慣れた席がご自分の席だと覚えらることで、リビングにも自分の居場所があると思っていただければよいと考えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が、今まで自宅で使っておられたタンス・鏡台等を持って来られています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方の今までの生活を知り、一緒に考えています。	居室には、可能な範囲で自由に荷物を持ち込むことが可能です。テーブルや机、こたつ、洋服ダンス、テレビ、加湿器など持ち込んでいます。壁面には好みに応じたウォールステッカーで装飾している利用者、鞆かけを取り付けている利用者など様々です。居室には押入れ、袋戸棚があり、夏、冬の衣類や荷物を整理できるスペースを確保しています。室内にはぬいぐるみや家族の写真、掛け時計、雑誌や筆記用具など、使い慣れた身の回りのものを持ちこみ、1人ひとりの個性を活かした部屋となっています。防災カーテンも利用者の希望に応じて、自由に選択することができます。入口には、表札や写真を貼るなどの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「ワーカーがそばにすること」「ワーカーが声をかけること」が安全に繋がればと思います。		

